

オールド・ノリタケの 道化師たち

井谷善恵, D.Phil (Oxon)

はじめに

前回のジャーナルでは女性像を取り上げた。

今回は、女性像と並んで、人気の高いオールド・ノリタケの道化師について述べてみよう。

道化師や女性像等の磁器で作られた人物像を研究する場合、その方法としては、
1) 時代別 2) 地域別 3) ジェンダー 4) 技法別
5) 描き方などについて調べる方法が考えられる。

この中で今回は特に、地域とジェンダーという観点から道化師について見てみよう。

まず、地域別に分ける場合の分類方法は、その原画がどこで制作されたのか、デザインがどの国の美術や文化を表現しているのかということによる。オールド・ノリタケの場合、それらの地域は大別して、日本、オリエント、ヨーロッパ、アメリカの四つの地域に分けることができる。

道化師の歴史はヨーロッパに始まる。他にヨーロッパで生まれ、オールド・ノリタケが模倣、または影響を受けて作られたものとしては、女性のポートレートがよく知られている。それ以外にも、ローマ人、ギリシャ人、オランダ風景や、ミレー (1814-75) 作の油彩「落ち葉拾い」(1850-859) などの原画を元に描かれたものなど多岐にわたる。

では、オールド・ノリタケが影響を受けた道化師は、ヨーロッパで、いつごろ作られ、その後、オールド・ノリタケはどのような影響を受けて作られたのだろうか？

オールド・ノリタケの道化師は、その裏印から判断してアール・デコ期に作られたものが中心と考えられるが、特にその時代に作られたのは何故か。その魅力はどこにあるのだろうか。

次にオールド・ノリタケの道化師をジェンダーの観点から見てみよう。この場合、それらは男性なのか？女性なのだろうか？

オールド・ノリタケに描かれた人物像を男女別

に分けた場合、特徴的なことは、女性像はマリー・アントワネットなどのように名前を特定できる18世紀の身分の高い女性も多い。これに対して男性は、ジョニー・アップルシードなどほんの一部の例外を除いて、僧侶、パイプをすう男性など、無名の人物がほとんどである。

ではオールド・ノリタケの道化師は、女性のポートレートのように元の人物を特定できるのだろうか？実在の人物だったのだろうか？

オールド・ノリタケが影響を受けたヨーロッパの道化師の歴史や磁器のフィギュアの例をふまえながら、オールド・ノリタケの道化師について論究したい。



写真 1

1. アール・デコとバレエ・リュス

はじめにオールド・ノリタケの道化師が作られた時代の美術様式であるアール・デコの特徴をかんたんに述べてみよう。

アール・デコ (Art Déco) という美術様式の存在が知られるようになったのは、1925年4月から10月にかけてパリで「現代装飾芸術・工業美術国際博覧会 Exposition Internationale des Arts Decoratifs et Industriels Modernes」が開催されてからである。

イギリスにおいては、それまで「1925年様式」

¹ アラ・ローゼンフェルド 福地大輔訳「コメディア・デラルテ、カーニバル、キャバレー」
『舞台芸術の世界——ディアギレフのロシアバレエと舞台デザイン』展図録 2007年 p45